

二次医療圏の見直しについて

1 二次医療圏について

二次医療圏は、地理的条件等の自然的条件及び日常生活の需要の充足状態、交通事情等の社会的条件を考慮して一体の区域として病院における入院に係る医療（三次医療圏で提供することが適当と考えられるものを除く。）を提供する体制の確保を図ることが相当であると認められる区域を単位として認定するもの。現在、本県では、5圏域を二次医療圏として設定しているところ。

2 岐阜県の二次医療圏の状況

平成29年3月31日付け医政発0331第57号厚生労働省医政局長通知「医療計画について」において、「人口規模が20万人未満の二次医療圏については、入院に係る医療を提供する一体の区域として成り立っていないと考えられる場合（特に、流入患者割合が20%未満であり、流出患者割合が20%以上である場合）、その設定の見直しについて検討する。」とされている。県内各圏域の状況は以下のとおり。

	人口（人）	推計流入患者割合（%）	推計流出患者割合（%）
岐阜圏域	799,766	19.8	8.8
西濃圏域	372,399	8.0	17.5
中濃圏域	373,712	11.5	28.2
東濃圏域	336,954	9.9	22.9
飛騨圏域	149,072	6.4	22.1
合計	2,031,903	13.9	17.6
出典	平成27年国勢調査	平成26年患者調査(厚生労働省による特別集計)	

飛騨圏域が見直しを検討する要件に合致しており、隣接する中濃圏域或いは東濃圏域との統合の他、患者流出量が多い岐阜圏域との統合を念頭においた見直し検討を行うことが考えられる。

○飛騨圏域における流出患者の状況

飛騨圏域における患者の流出状況は以下のとおり。

			流出先					合計	
			岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	富山圏域		名古屋圏域
患者 住所 地	飛騨 圏域	患者数※ (人/日)	53	-	28	-	41	15	137
		構成割合	38.7%	-	20.4%	-	29.9%	10.9%	100.0%

出典：地域医療構想策定支援ツール（厚生労働省）

※未記入は、10人/日未満

その見直しの検討を行う際には、二次医療圏の面積や基幹となる病院のアクセスの時間等の考慮も必要となる。

次項以降において、見直し検討に必要な事項について状況等を把握することとする。

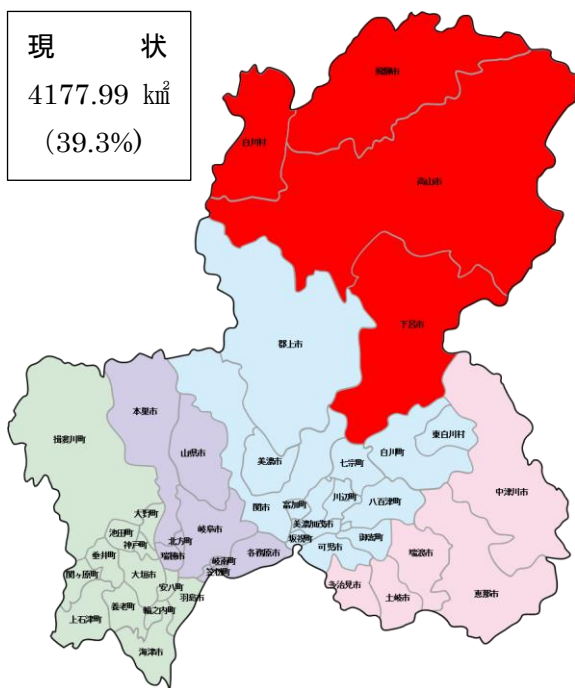
3 二次医療圏の面積について

現行の二次医療圏の面積は以下のとおり。

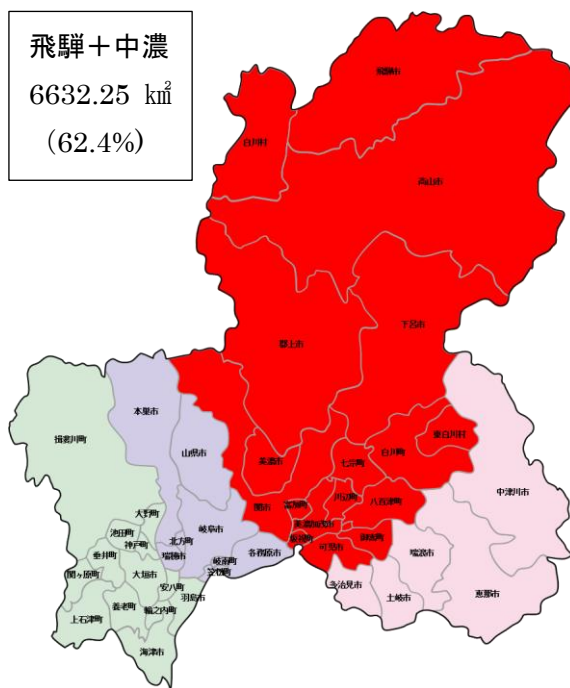
圏域名	面積 (km ²)	割合	含まれる市町村
岐阜圏域	993.28	9.4%	岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、羽島郡（岐南町、笠松町）、本巣郡（北方町）
西濃圏域	1,432.94	13.5%	大垣市、海津市、養老郡（養老町）、不破郡（垂井町、関ヶ原町）、安八郡（神戸町、輪之内町、安八町）、揖斐郡（揖斐川町、大野町、池田町）
中濃圏域	2,454.26	23.1%	関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市、加茂郡（坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村）
東濃圏域	1,562.82	14.7%	多治見市、瑞浪市、土岐市、中津川市、恵那市
飛騨圏域	4,177.99	39.3%	高山市、飛騨市、下呂市、大野郡白川村

飛騨圏域を他の圏域に統合した場合の、イメージは以下のとおり

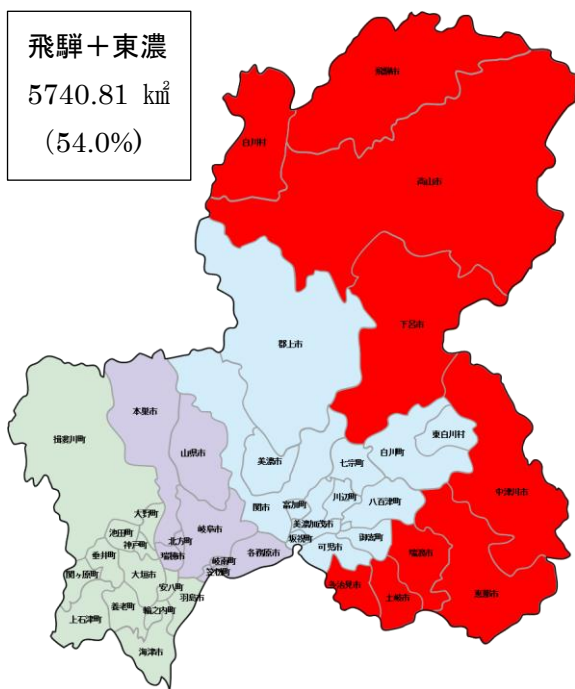
現 状
4177.99 km²
(39.3%)



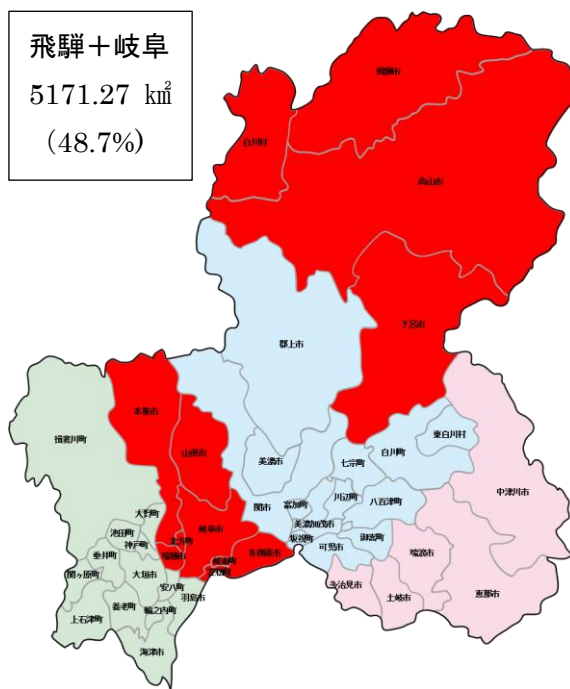
飛騨+中濃
6632.25 km²
(62.4%)



飛騨+東濃
5740.81 km²
(54.0%)



飛騨+岐阜
5171.27 km²
(48.7%)



4 中濃及び東濃圏域から飛騨圏域への医療提供体制の状況

中濃或いは東濃圏域に位置する主要病院（DPC病院）へ飛騨圏域（高山市、下呂市、白川村）から通院する場合、30分圏内、60分圏内、90分圏内に入る人口を分析した結果は以下のとおり。

なお、飛騨市全域が通院時間90分以上となっているため、分析結果に「飛騨市」は記載されていない。

○中濃圏域及び東濃圏域における主要病院（DPC病院）の診療圏に含まれる飛騨圏域の状況

(単位:人) 人口カバー率

		市町村	～15分	～30分	～60分	～90分	～60分	～90分
中濃	鷺見病院	高山市	—	—	1,016	1,310	1.10%	1.41%
		下呂市	—	—	—	403	0.00%	1.11%
		白川村	—	—	—	879	0.00%	50.72%
	郡上市民病院	高山市	—	—	74	430	0.08%	0.46%
		下呂市	—	—	1,630	26,622	4.49%	73.31%
	市立美濃病院	下呂市	—	—	808	7,680	2.23%	21.15%
	中濃厚生病院	下呂市	—	—	—	5,398	0.00%	14.86%
木沢記念病院	下呂市	—	—	—	5,777	0.00%	15.91%	
東濃	中津川市民病院	下呂市	—	—	—	7,528	0.00%	20.73%
	市立恵那病院	下呂市	—	—	—	8,101	0.00%	22.31%
	県立多治見病院	下呂市	—	—	—	88	0.00%	0.24%
	多治見市民病院	下呂市	—	—	—	175	0.00%	0.48%

出典:DPC調査参加施設の運転時間による診療圏(国立がん研究センター 臨床経済研究室長 石川ハジメ光一)

通院時間が90分以内となる市町村ごとの人口カバー率の最大は、郡上市民病院が対応する下呂市の73.31%となる。

中濃圏域、東濃圏域の基幹病院では、飛騨圏域の3市1村の住民全体を十分にカバーすることは困難である。

5 他の法律等の区域設定について

二次医療圏の見直しに当たっては、以下の他の医療、介護、障害福祉に関する法律等の規定に基づく区域の設定についても考慮する必要があるが、現在はすべて5圏域と同一になっている。

- ・岐阜県地域医療構想における構想区域（医療法）
- ・岐阜県高齢者安心計画における老人福祉圏域（老人福祉法、介護保険法）
- ・岐阜県障がい者総合支援プランにおける障害保健福祉圏域（障害者総合支援法）

6 二次医療圏設定の見直しについて

方針（案）

面積、基幹病院へのアクセス、既存の医療、介護、福祉に関する県の計画における圏域の設定状況などを考慮し、二次医療圏は現行のとおりとする。